

卸電力メニューについて

平成30年2月23日
沖縄電力株式会社

卸電力メニューについて

- 第22回制度設計専門会合（平成29年9月29日）にて表明いたしました、沖縄地域における卸活性化へ向けた自主的取り組みである卸電力メニューにつきまして、以下のとおり設定しております。

【メニュー設定の概要】

価格設定： 基本料金を低め、従量料金を高めに設定した低DC型
季節別時間帯別料金、燃料費調整あり

契約形態： 相対取引

供給開始： 平成30年4月

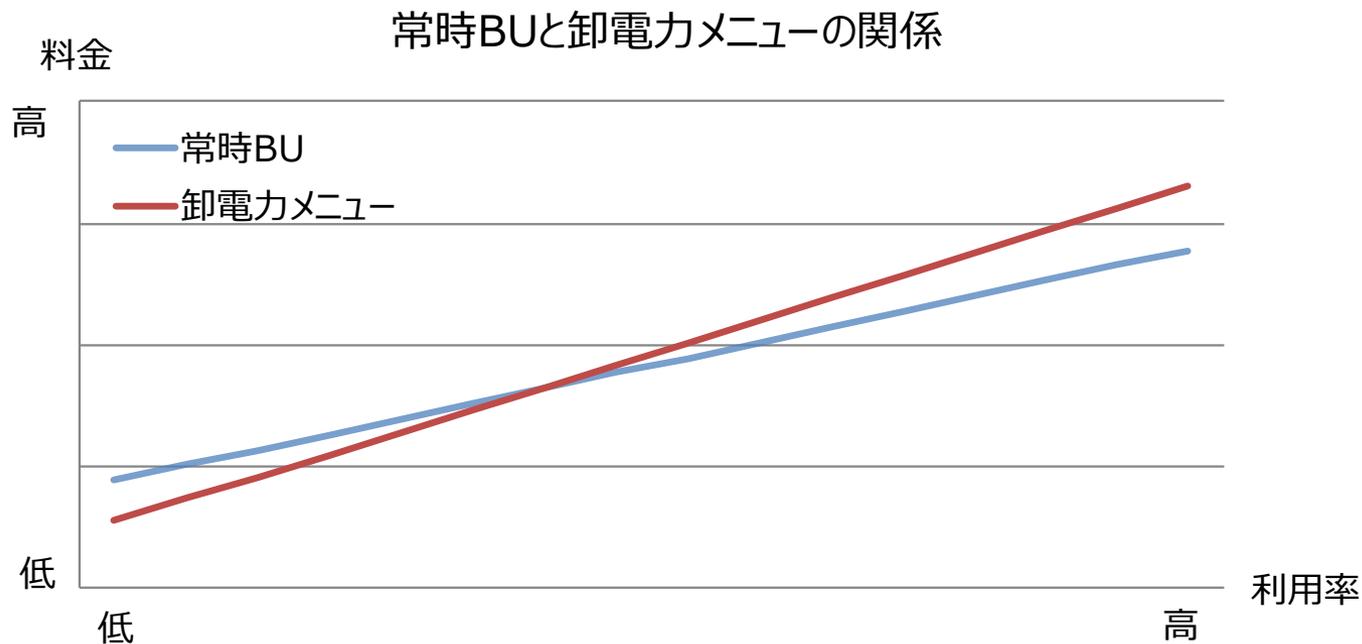
電源構成： 石油機、LNG機の一部（需給調整相当）、石炭機の一部（需給調整相当）

対象費用： H30～H32年度想定費用（調整力相当分控除）

- ・石炭機およびLNG機については、弊社の運用実態として、ベースと需給調整の両方の側面があることから、発電機の運用計画を基に、燃種別に需給調整相当分の割合を算定。
- ・上記電源構成の割合を反映し、燃料費調整額基準単価を設定。
- ・常時バックアップの固定費回収率が高めとなっていることを踏まえ、卸電力メニューの固定費回収率は低めに設定。

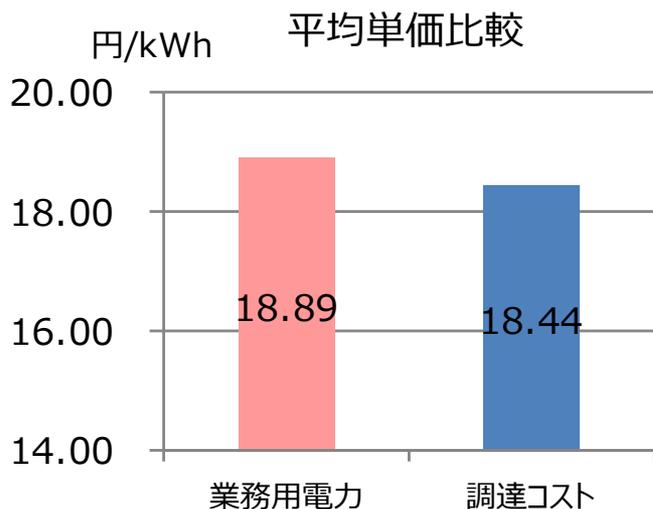
供給価格の水準

- 今回設定した卸電力メニューは、需給調整に活用いただくことを念頭に、基本料金を比較的安く、従量料金を比較的高めに設定しております。
- 以下のとおり、高利用率帯では常時バックアップが安く、低利用率帯では卸電力メニューが安くなる傾向にあります。



供給価格の水準

- 業務用電力（高圧）の平均負荷率を前提とした試算において、弊社小売料金（業務用電力）と調達コストを比較した場合、弊社小売料金を下回ることとなり、本メニューをご活用いただけるものと考えております。



【試算前提】

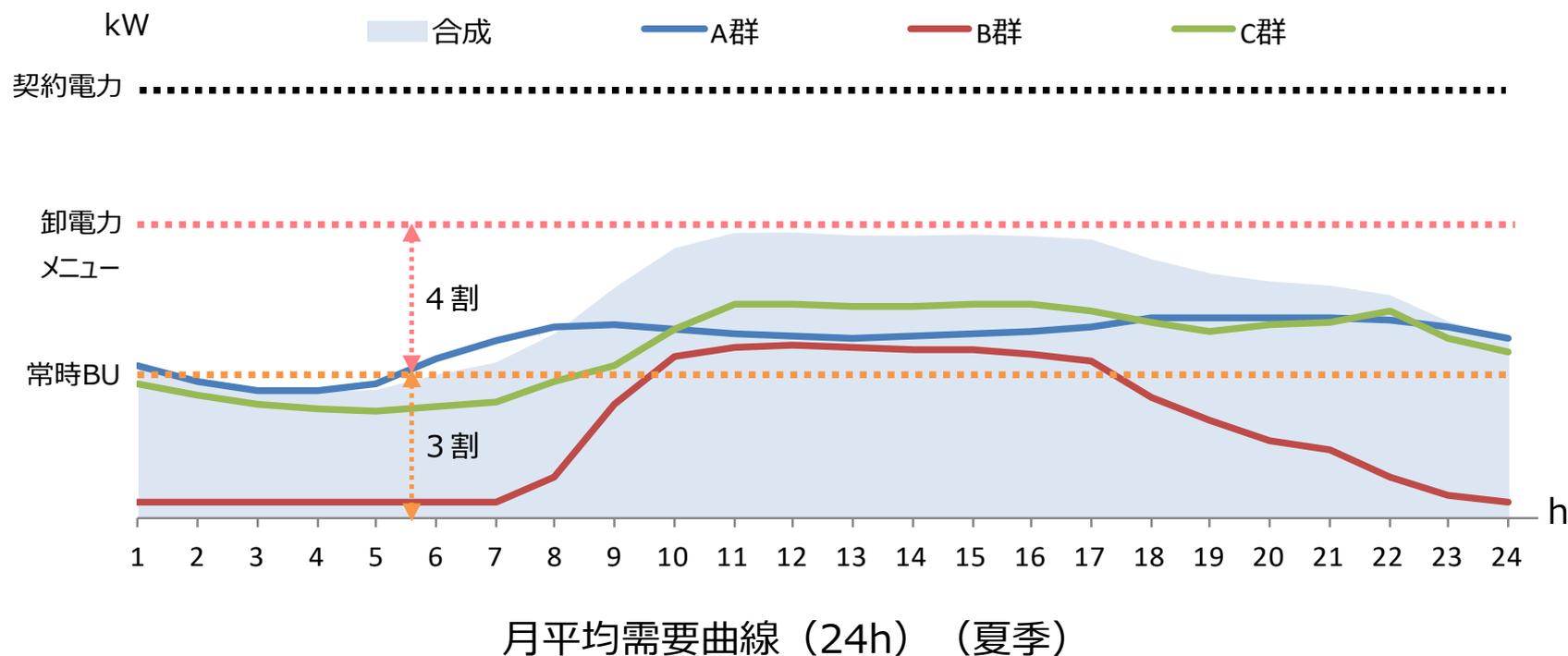
- ・小売料金： 業務用電力（高圧）
（平均負荷率：37%）
- ・不等率：1.38
- ・調達コスト：卸電力（常時BU3割+卸電力メニュー4割）、託送料金
- ・託送料金：高圧標準メニュー
- ・常時BU利用率：92%

- 需要構成によって平均負荷率および常時BU利用率は変動しますが、最大電力が異なる時間帯に発生する需要を組み合わせる等、需要構成の最適化を目指すことにより、調達コストの低減も可能となります。（次頁参照）
- また、上記は、供給力の全てを弊社卸供給で賄う前提での試算であり、FIT電源等を活用することによって、より調達コストを抑えることが可能と考えております。

供給価格の水準

- 単価水準は、前頁の試算前提を踏まえ設定しておりますが、需要の組み合わせを工夫することにより、高負荷率の需要への供給も可能となるものと考えております。

【需要構成のイメージ】



※合成曲線と各需要曲線の目盛は異なります。

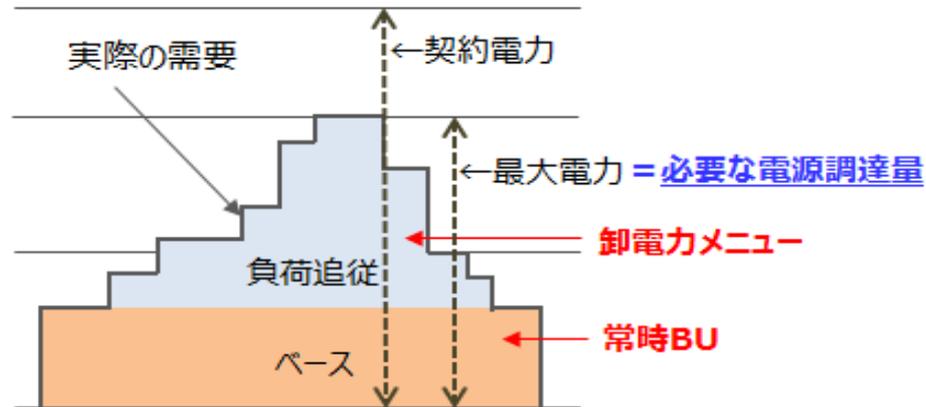
<参考（第22回制度設計専門会合資料（平成29年9月29日））>

※第22回制度設計専門会合（平成29年9月29日）資料より抜粋

【需給調整用卸電力メニューの概要】

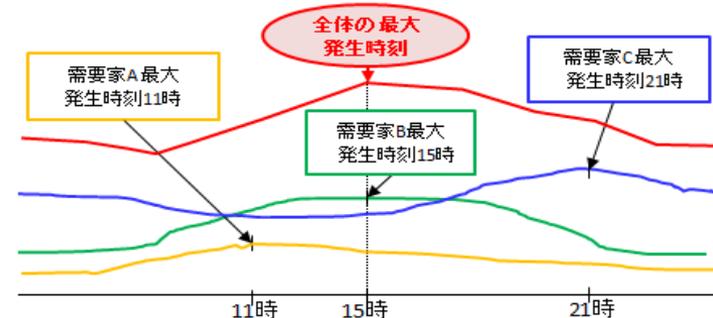
- 卸電力メニューについては、主に昼間のピーク対応等、負荷追従へ活用いただくことをイメージして設定。
- 電源調達については、複数の需要を組み合わせた契約電力合計に当該需要合計の不等率※を勘案した供給力を確保することで小売供給が全量可能となり、当初の獲得需要に対する卸供給割合の上限については、この不等率を考慮した上で、ほぼ全量の小売供給が可能となるような上限値として設定しております。

【活用イメージ】



※不等率について

複数の需要家の最大電力は必ずしも同時に発生するものではなく、時間的に分散しており、その度合いを示す指標を不等率といいます。不等率は、各需要家の契約電力合計と最大電力との比で表わされ、不等率が大きいほど、個々の需要家の最大電力は異なった時刻に分散して現れます。



【通告タイミング】

- H30年4月開始に向けては、現行の常時BUと同様に前日11時〆切として設定。
現在、より実需給に近い通告タイミングの設定へ向けて検討中。

【卸供給割合】

- 卸電力メニューの契約電力（卸供給割合）は、接続送電サービスの4割以内とする。
 - ※常時バックアップの契約電力と合わせて、卸供給割合は、高圧以上について、接続送電サービス契約電力の7割以内、低圧について、接続送電サービス契約電力の5割以内とします。
 - ※なお、上記の割合については、今後の競争状況や電源調達環境の変化等も踏まえ、将来的に見直す可能性があります。